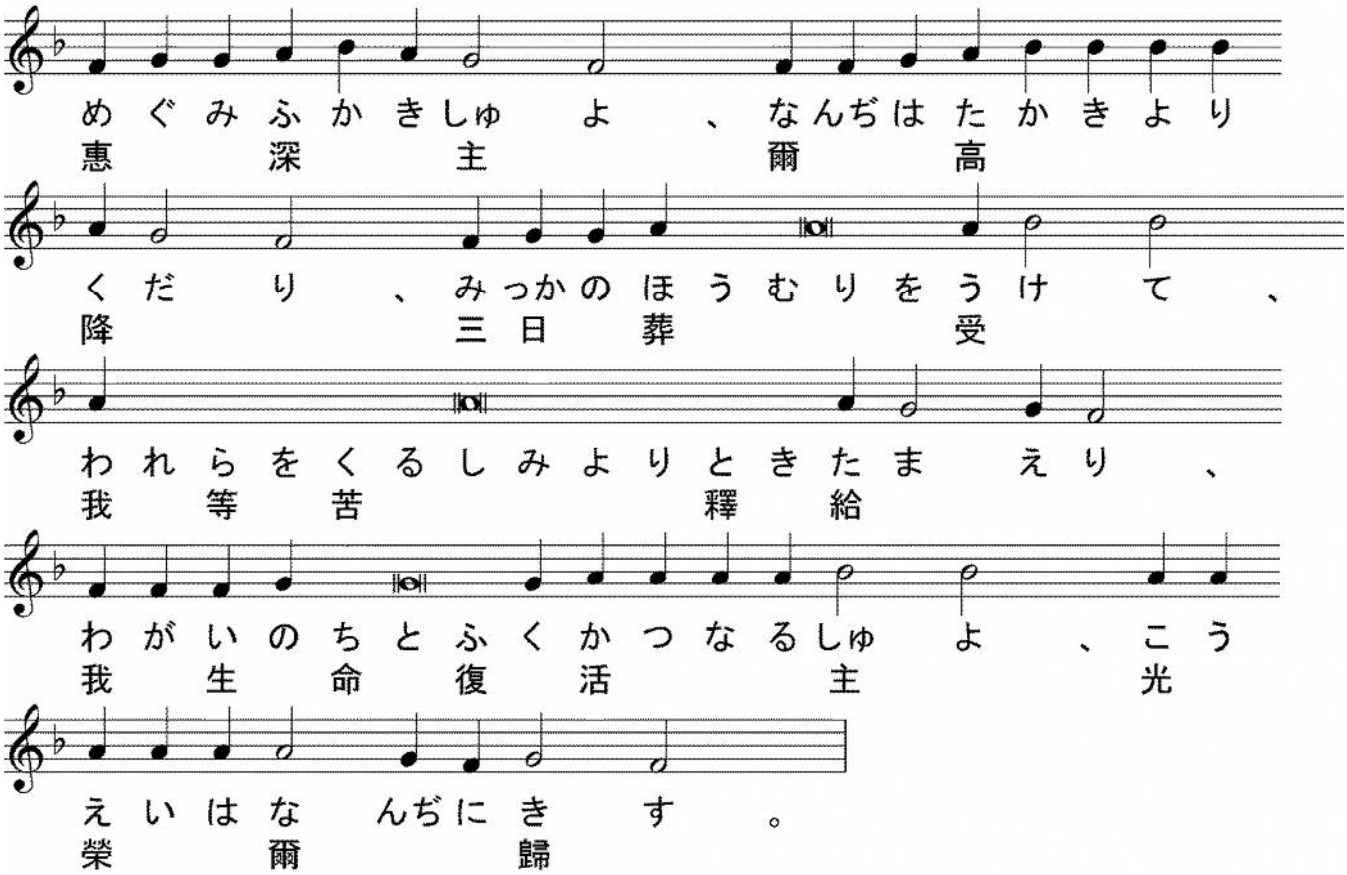
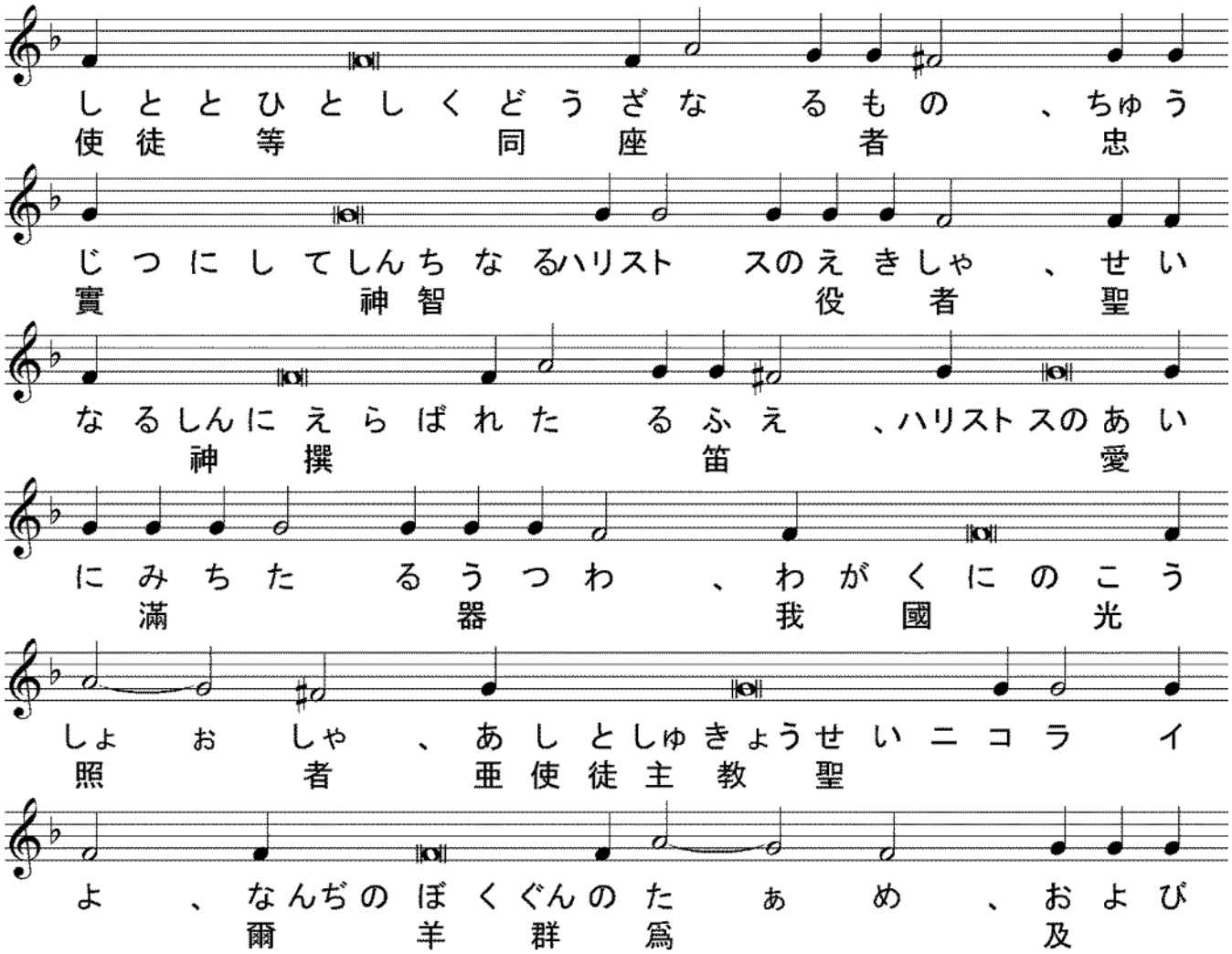
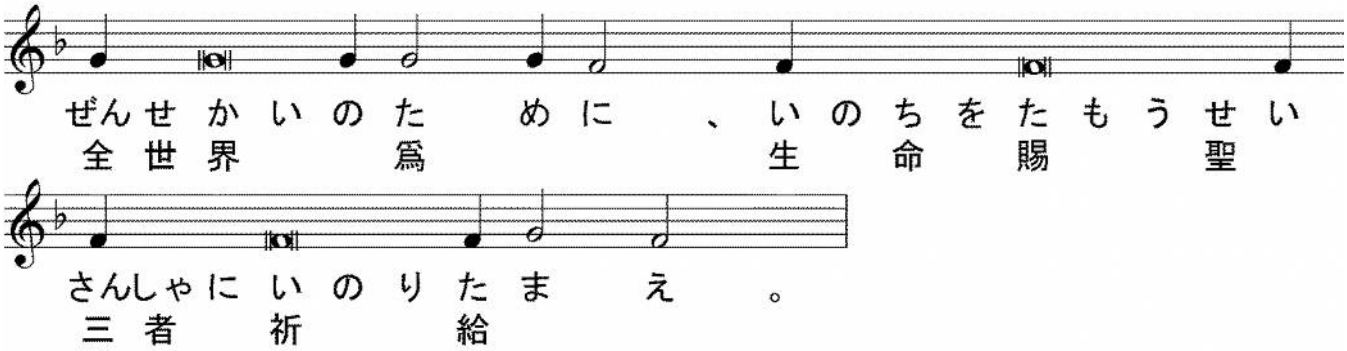
【　復活のトロパリ　第８調　】

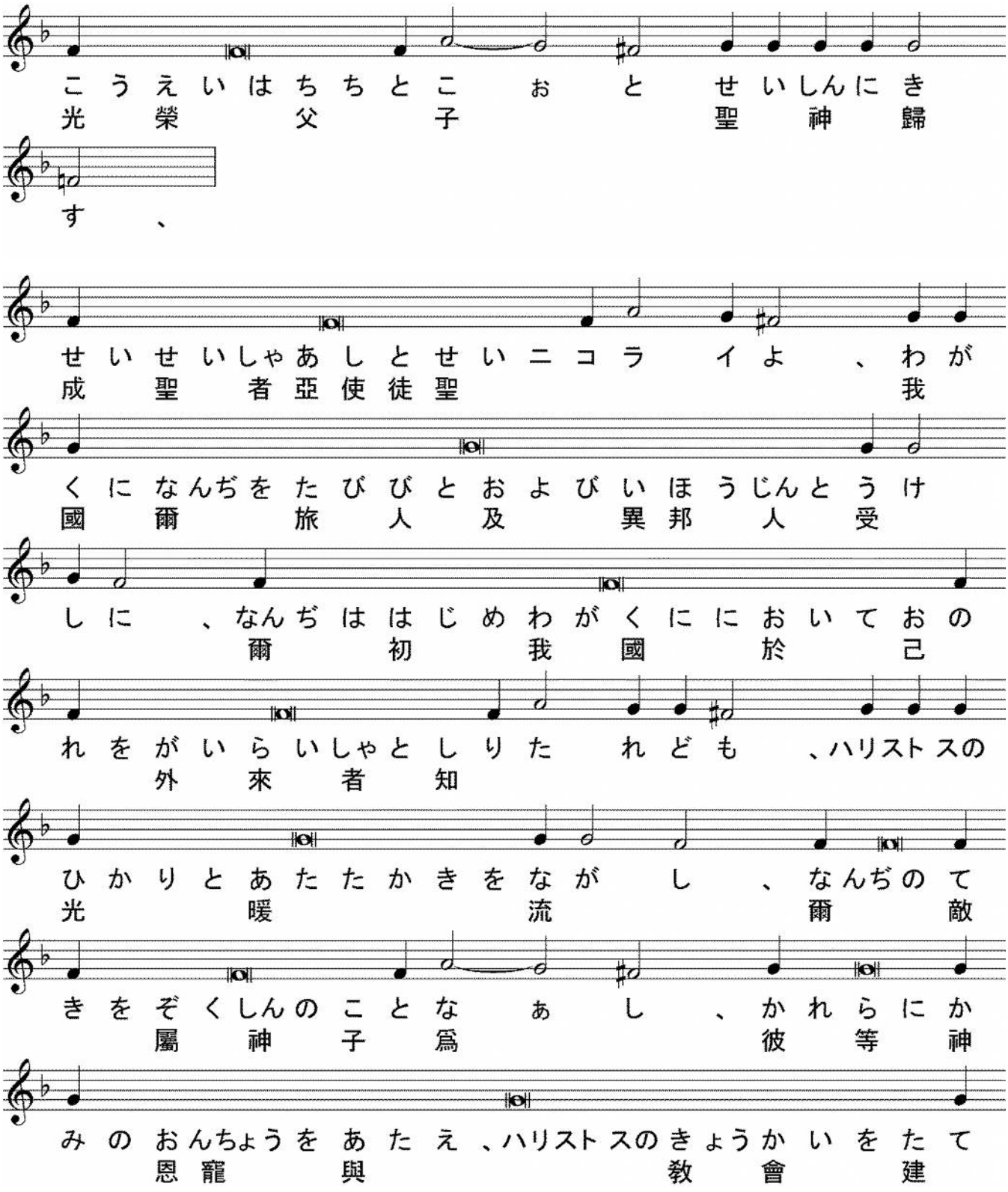


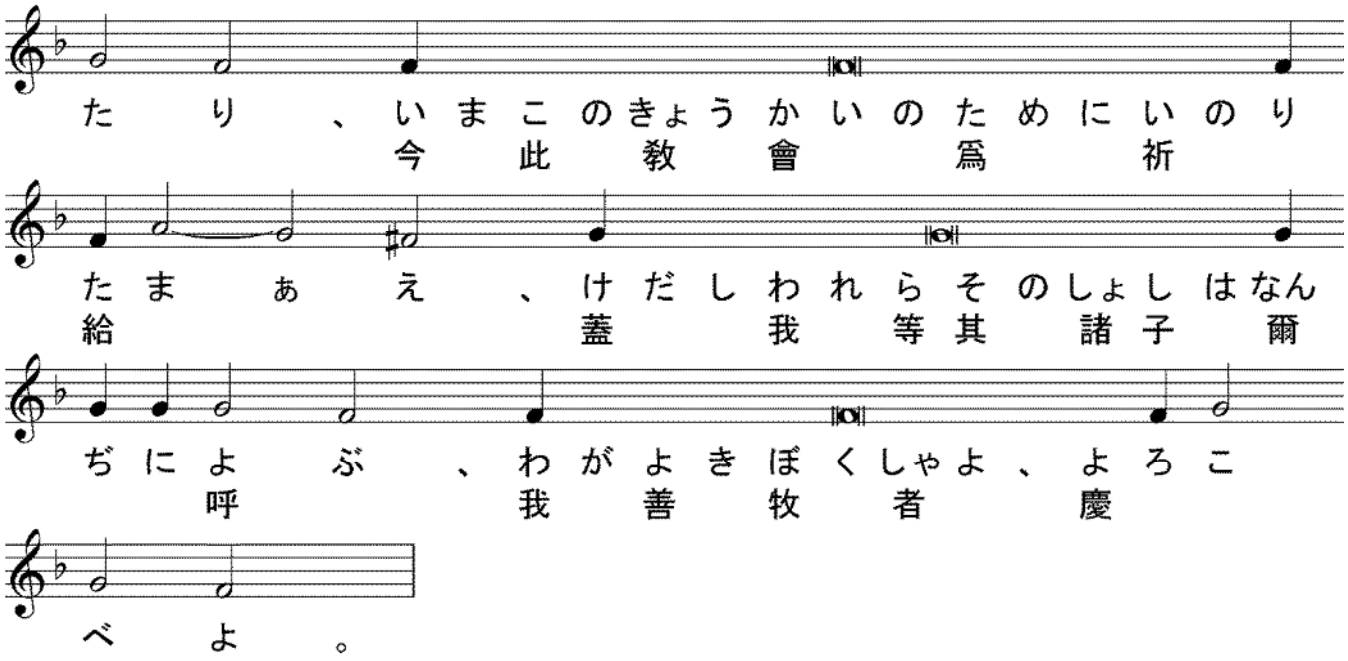
【　日本の亜使徒ニコライのトロパリ　第４調　】



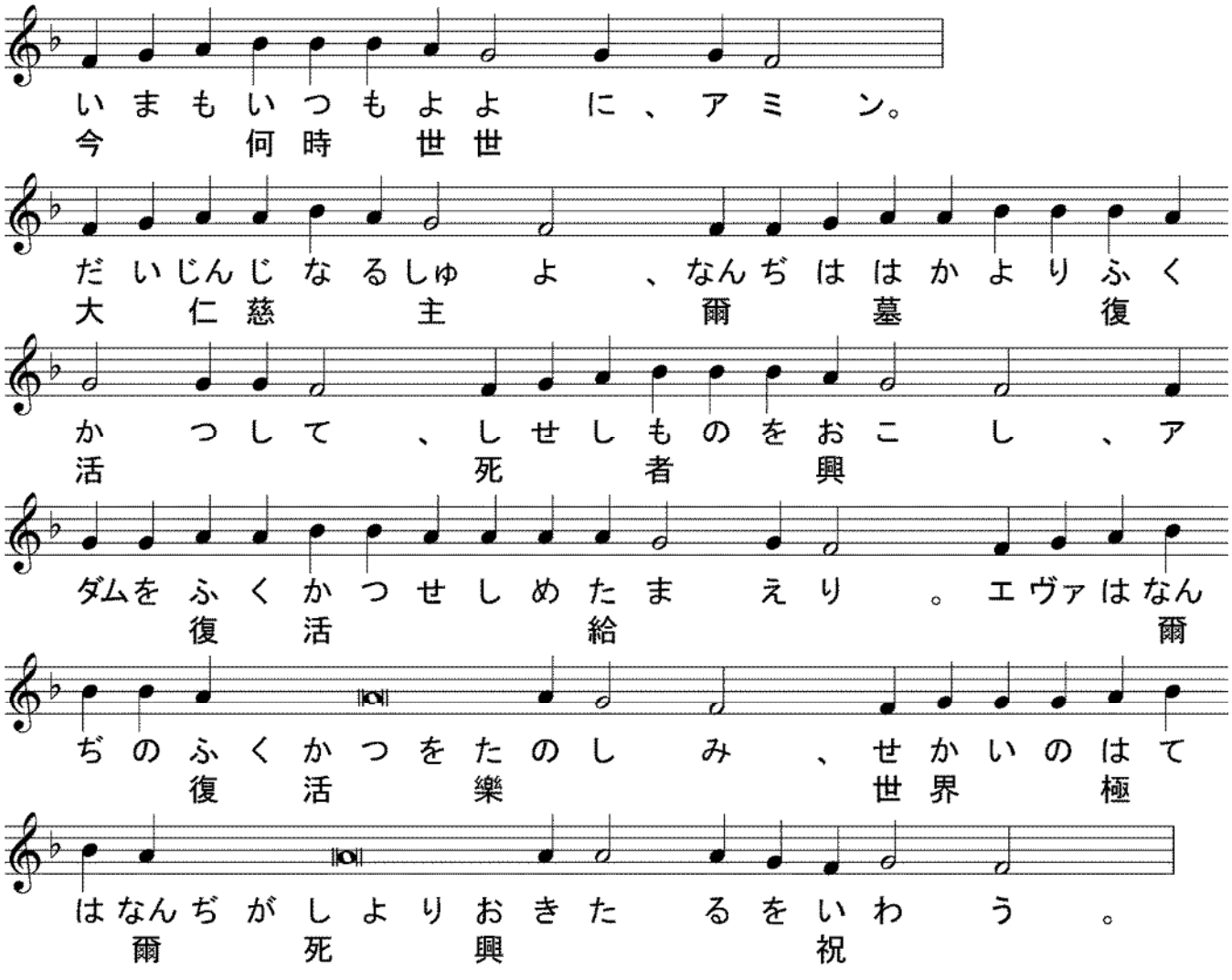


【　日本の亜使徒ニコライのコンダク　第４調　】





【　復活のコンダク　第８調　】

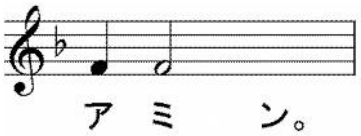


司祭)（　黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

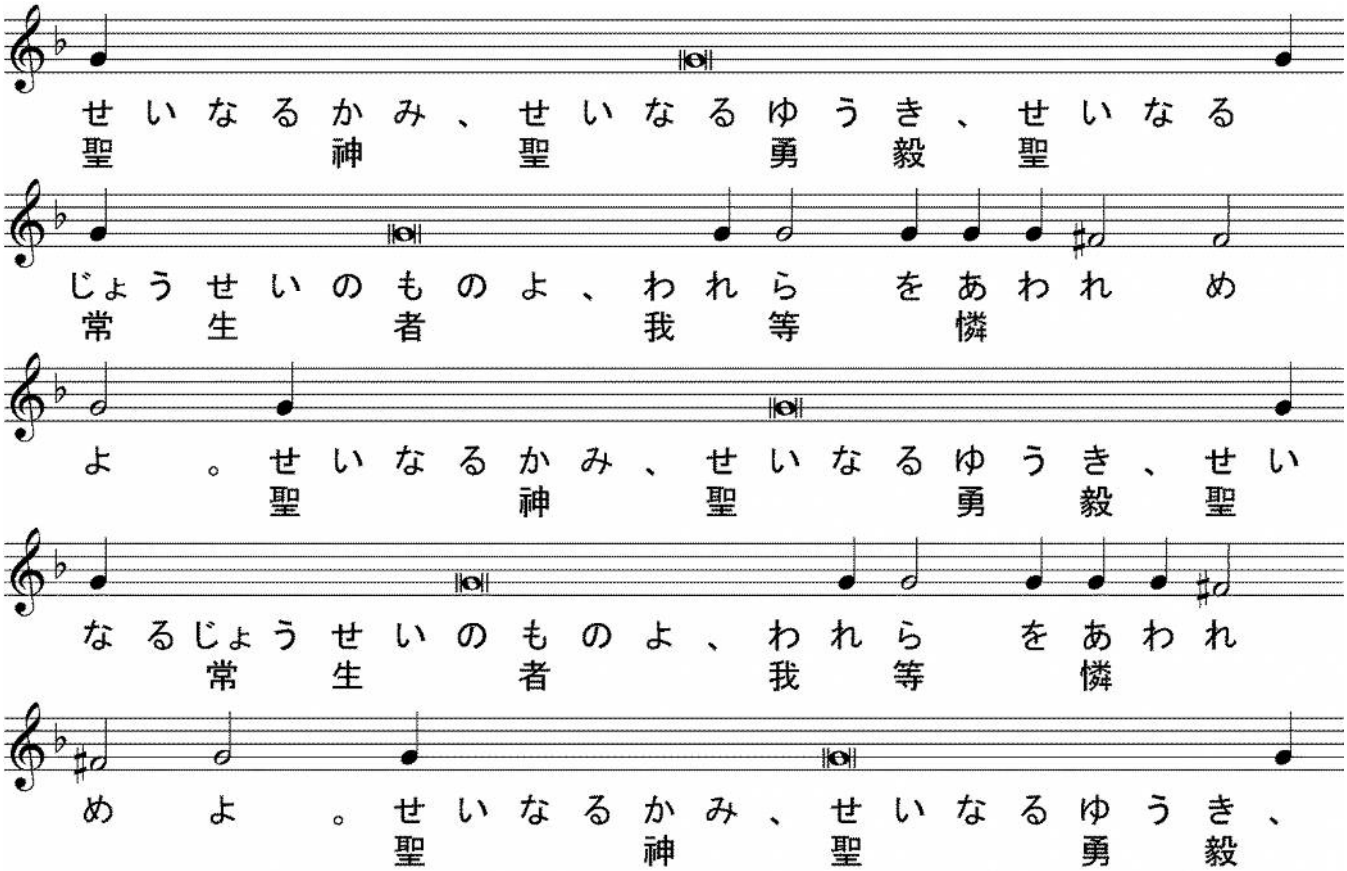
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と

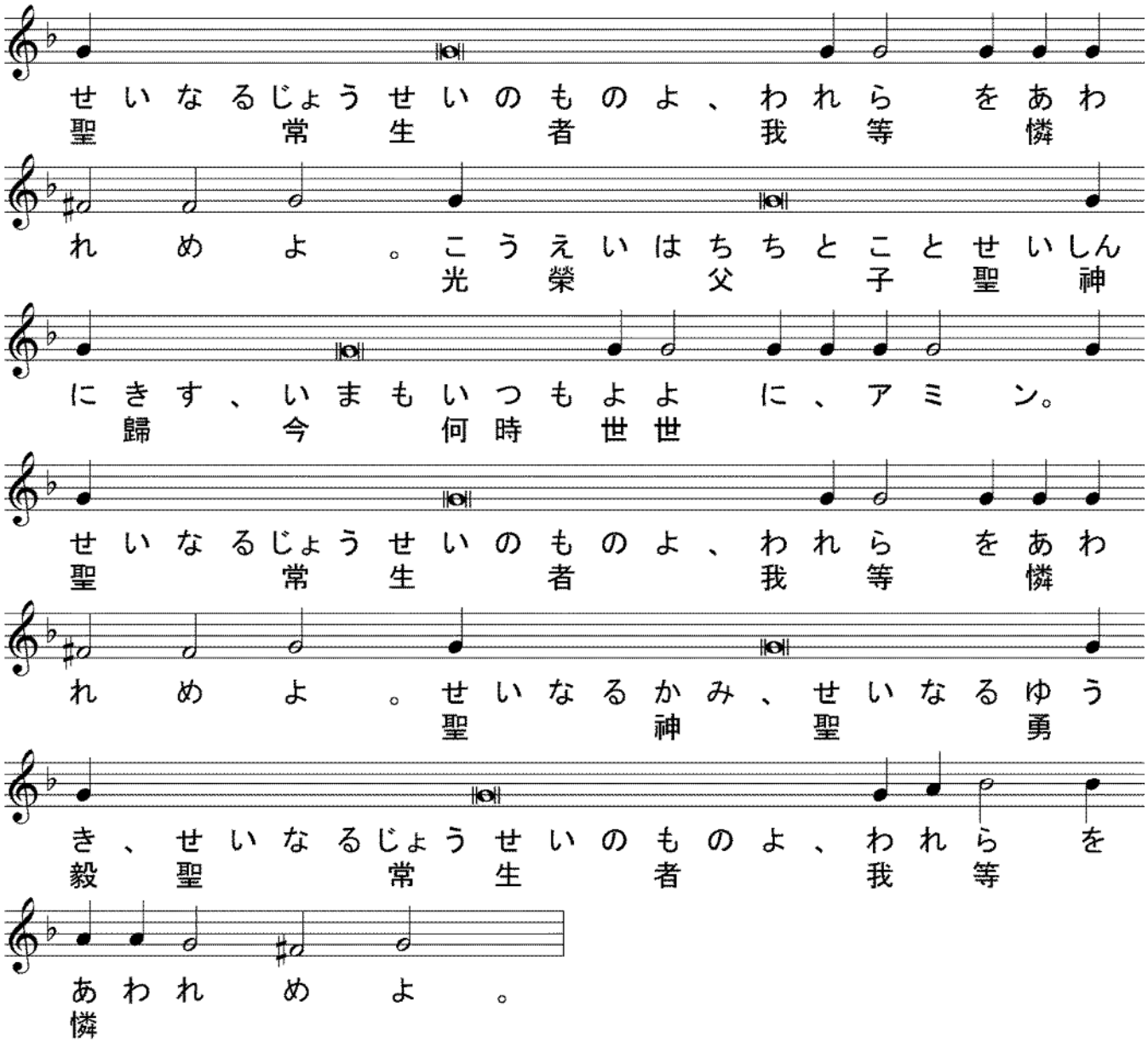
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**



【 聖三祝文 】





司祭)（ 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 ）

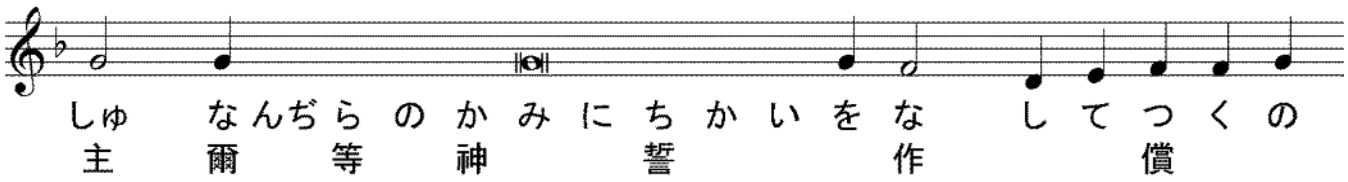
【 提綱 主日第８調 】

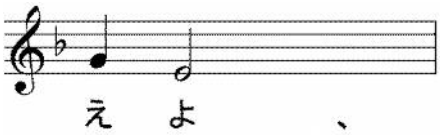
司祭) 愼みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

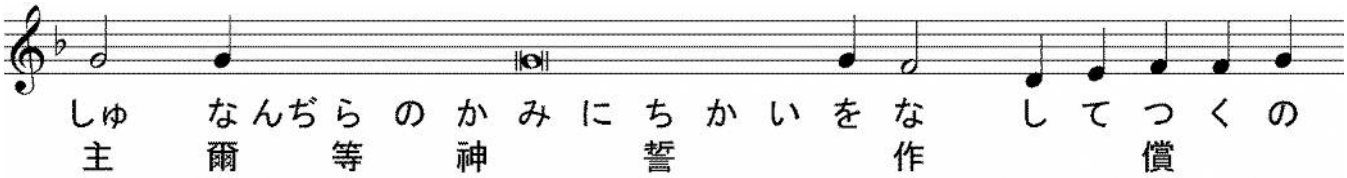
司祭) 睿智、

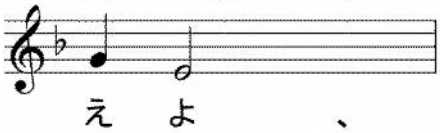
誦經) プロキメン、主爾等の神に誓を作して償えよ、



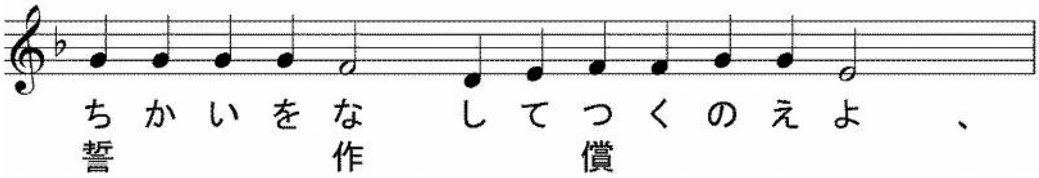


誦經）神はイゥデヤに知られ、其名はイズライリに大なり、





誦經）主爾等の神に



【 使徒經 224端 エフェス書4章1節～6節 】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、我、主の爲に囚たる者は、爾等に求む、爾等が召されたる召に稱いて行え、凡の謙遜と溫柔と恒忍とを以て、愛に因りて互に恕せよ、務めて和平の繋を以て、神の一なるを守れ。體は一、神は一、爾等が召されたる召の望の一なるが如し、主は一、信は一、洗禮は一、神萬衆の父は一なり、彼は萬有の上に在り、萬有を貫き、我等萬人の中に在り。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ。主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。

＊＊

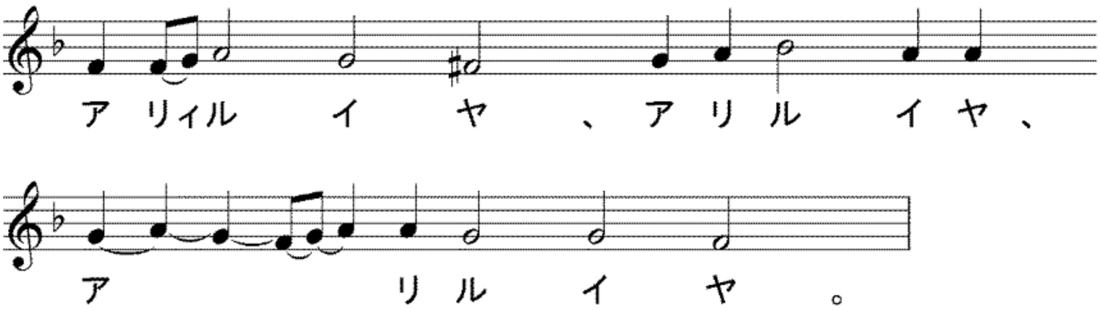
【　アリルイヤ　主日第８調　】

司祭）爾(なんぢ)に平安(へいあん)、

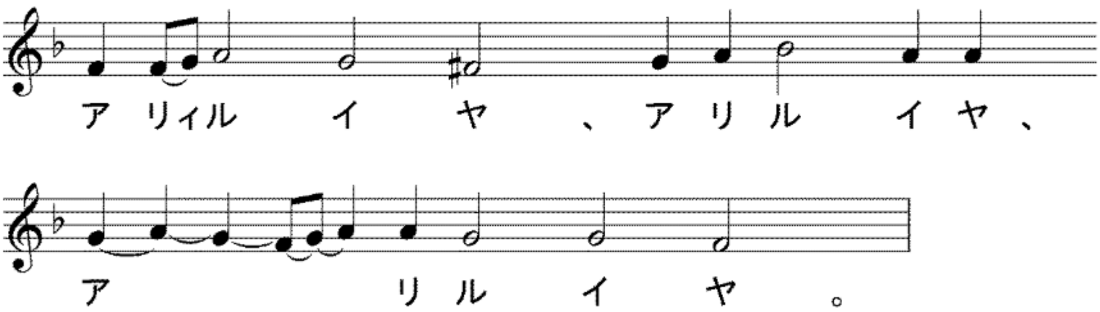
誦經）爾(なんぢ)の神(しん)にも、

司祭）睿智(えいち)、

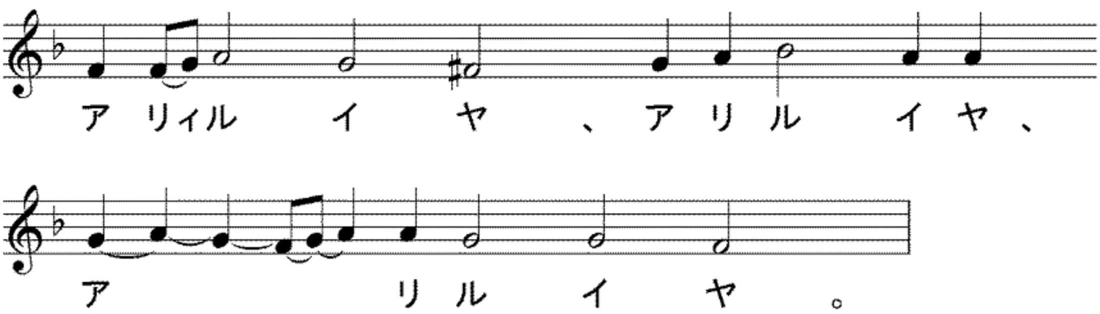
誦經）アリルイヤ、



誦經）來(きた)りて主(しゅ)に歌(うた)い、神我(かみわ)が救(すくい)の防固(かため)に呼(よ)ばん、



誦經）讃揚(さんよう)を以(もつ)て其顔(そのかんばせ)の前(まえ)に進(すす)み、歌(うた)を以(もつ)て彼(かれ)に呼(よ)ばん、



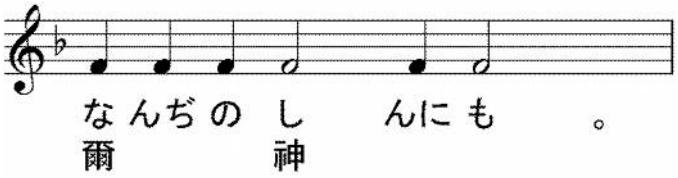
司祭）（　黙誦：人(ひと)を愛(あい)する主宰(しゅさい)よ、我(わ)が心(こころ)に神(かみ)を知(し)る智慧(ちえ)の浄(いさぎよ)き光(ひかり)を輝(かがや)かし、我(わ)が思念(しねん)の目(め)を啓(ひら)きて、爾(なんぢ)が福音(ふくいん)の教(おしえ)を悟(さと)らしめ給(たま)え、我(わ)が衷(うち)に爾(なんぢ)の福(ふく)たる誡(いましめ)を畏(おそ)るる畏(おそれ)をも入(い)れて、我等(われら)が悉(ことごと)くの肉體(にくたい)の慾(よく)を踏(ふ)み、凡(およ)そ爾(なんぢ)の喜(よろこ)ぶ所(ところ)

を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

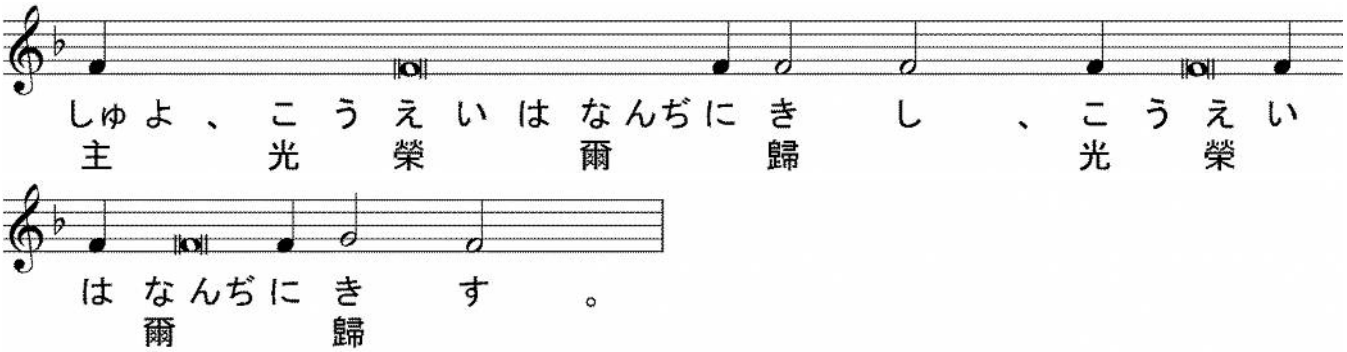
爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。　）

【　福音經（エヴァンゲリオン）　ルカ福音書53端　10章25〜37節　】

司祭）睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、



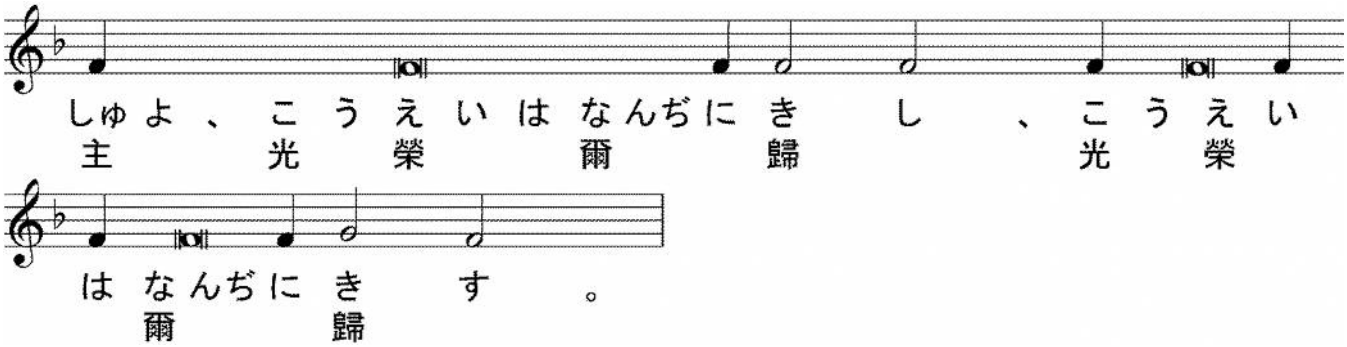
司祭）謹みて聽くべし、彼の時一の律法師イイススに就きて、彼を試みて曰えり、師よ、我何を爲して永遠の生命を嗣がんか。彼は之に謂えり、律法に何をか録せる、爾如何に読むか。答えて曰えり、爾心を盡し、靈を盡し、力を盡し、意を盡して、主爾の神を愛せよ、又爾の鄰を愛すること、己の如くせよ。イイスス之に謂えり、爾の答えし所正し、之を爲せ、乃生きん。然れども彼は己を義とせんと欲して、イイススに謂えり、我が鄰とは誰ぞや。イイスス答えて曰えり、或人イェルサリムよりイェリホンに下る時、盜賊に遇へり、彼等其衣を剥ぎ、彼に傷つけ、幾ど死するばかりにして、彼を捨て去れり。適一の司祭是の路より下りしが、彼を見て、過ぎ去れり。同じくレヴィトも彼処に至り、近づきて彼を見て、過ぎ去れり。惟或サマリヤ人は行きて、此に至り、彼を見て憫み、就きて、其傷に油と酒とを沃ぎて、之を裹み、彼を己の家畜に乗せ、旅館に引き至りて、彼を看護せり。明日行かんとする時、銀二枚を出し、館主に與え

て、之に謂えり、此の人を看護せよ、費若し之より益さば、我返る時爾に償わん。此の三人の中、爾孰を盗賊に遇いし者の鄰と意うか。彼曰えり、此の人に矜恤を施しし者なり。イイスス彼に謂えり、往きて、爾も是くの如く行え。

＊＊

（比較用　口語訳）ある律法学者が現れ、イエスを試みようとして言った、「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。彼に言われた、「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどう読むか」。彼は答えて言った、「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります」。彼に言われた、「あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる」。すると彼は自分の立場を弁護しようと思って、イエスに言った、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」。イエスが答えて言われた、「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか」。彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。

＊＊



※聖体礼儀③（金ロイォアン聖体礼儀）へ